

「婦人層の体操実践活動に関する研究」

三井島 智子^{*}・小松 恵理子^{**}・岡田 猛^{*}・武隈 晃^{*}

On the Gymnastic Practice of Women.

Tomoko MIISHIMA・Eriko KOMATSU・Takeshi OKADA・Akira TAKEKUMA

目 的

近年、生活の中に運動を取り入れることや、運動を継続することの重要性は広く一般に認識されてきている。しかしながら、運動継続には「意志薄弱」という問題に限らず活動を取り巻く環境や組織の運営のあり方など様々の要因が関与し、実践の継続を困難にしている。

本研究では、体操の実践活動を自主的に運営している組織^{注)}を対象としその活動の実態を①全体、②地域別、③継続期間別の三点から分析し、実践継続に役立つ資料を得ることを目的とする。

方 法

会員より600名を抽出し、活動の実態や意識についてアンケート調査を行った。有効回答者380名(回収率63%)であった。調査の時期は昭和59年4月である。分析は次の三点について行った。

- (1) 全体分析……有効回答者全体の回答を集計し活動の特徴について明らかにする。
- (2) 地域別分析……(1)の資料を地方(鹿児島)と都市(関東・関西)の地域別に分析する。
- (3) 継続期間別分析……(1)を継続期間の短い者(二年未満)と長い者(三年以上)に分類し、その実態を比較対照したのち、継続期間の違いを規定する要因を検討する。

結果と考察

1. 活動の実態(全体分析)

表1-I-① 実践者の年齢構成

	10~30歳	31~40歳	41~50歳	51~60歳	61歳以上
全 体	24	176	122	46	12
N=380	6.32	46.32	32.11	12.11	3.16

表中上段は実数、下段は%を示す。以下同じ

表1-I-② 実践者の職業

	あ る	な し
全 体	94	284
	24.9	75.2

* 鹿児島大学教育学部

** 鹿児島女子短期大学

表1-I-③ 実践者の世帯収入

	100万 未 満	100～ 200万	201～ 300万	301～ 400万	401～ 500万	501～ 600万	601～ 700万	701万 以 上
全 体	3 0.79	8 2.12	29 7.67	57 15.08	67 17.72	58 15.34	45 11.90	111 29.37

表1-I-④ 実践者の学歴

	小 卒	中 卒	高 卒	短大卒	大 卒	院 卒
全 体	2 0.53	12 3.16	252 66.32	88 23.16	25 6.58	1 0.26

表1は有効回答者全体の結果を示したものである。表1-I-①に示したように、実践者の年齢構成は30歳、40歳代が約8割を占めている。職業を持っている者は約25%に留まり、大半が専業主婦であることを示している。また実践者の学歴では、高卒が大半を占めている。さらに、世帯収入⁵⁾では500万以上の人が50%を占め、昭和58年度の勤労者世帯の所得平均が491万であることから、比較的経済に余裕のある者が実践しているといえよう。以上個人の属性に関するものを基礎要因としてまとめると、30～40歳代の経済的に余裕のある専業主婦層が実践に参加している実態が窺える。

表1-II-① 入会の目的

	健 康 増 進	体 力 向 上	運動欲求 の充足	老 化 防 止	プロポー ションの 形 成	技術の 向 上	生 活 充 足	仲間の 獲 得	気 分 転 換	人 間 形 成	障害の 排 除	その他
全 体 (2271)	832 36.5	340 15.0	218 9.6	405 17.8	206 9.1	1 0.04	55 2.4	58 2.6	101 4.4	8 0.4	49 2.2	0 0

(※) 表中の整数は加重得点

表1-II-② 継続年数

	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5年以上
全 体	85 22.37	143 37.63	74 19.47	78 20.53

表1-II-③ この組織の存在を知った方法

	母	娘	姉 妹	友 人	TV, ラジオ	新 聞	その他
全 体	8 2.11	2 0.53	7 1.84	320 84.2	1 0.26	3 0.79	39 10.26

表1-II-④ 活 動 日

	月	火	水	木	金	土	日
全 体	50 13.26	55 14.59	72 19.10	90 23.87	103 27.32	23 6.10	1 0.27

表1-Ⅱ-⑤ 活動時間帯

	早 朝	午 前 (8~12時)	午 後 (12~16時)	夕 方 (16~18時)	夜 間 (18時以降)	そ の 他
全 体	2 0.53	260 68.60	59 15.57	4 1.06	52 13.72	2 0.53

表1-Ⅱ-⑥ 活動回数

	週 一 回	週 二 回	週 三 回	それ以上
全 体	361 95.0	15 3.95	2 0.53	1 0.26

表1-Ⅱ-⑦ 活動内容

	A体操	B体操	A+B体操	それ以上
全 体	248 65.44	10 2.64	116 30.61	5 1.32

表1-Ⅱ-⑧ 会 費

	~1,000円	1,001~2,000円	2,001~3,000円	3,001円~
全 体	1 0.26	120 31.66	238 62.80	20 5.28

表1-Ⅱ-⑨ 交 通 費

	~500円	501~1,000円	1,001円~
全 体	307 80.79	18 4.74	55 14.47

表1-Ⅱ-⑩ 運動着の費用

	~2,500円	2,501~5,000円	5,001~7,500円	7,501~10,000円	10,001円~
全 体	158 41.58	86 22.63	54 14.21	67 17.63	15 3.95

表1-Ⅱ-⑪ レオタードの着用について

	今も恥ずかしい	今は恥ずかしくない	初めから恥ずかしくない
全 体	13 3.42	287 75.53	80 21.05

次に、この活動への入会の目的など実際の活動に関する要因について表1-Ⅱ-①~⑪に示した。「入会の目的」は12項目から上位三位までを選択させており、各々一位3点二位2点三位1点と重みづけをし集計を行った。それによると、「健康増進、老化防止、体力向上」の順となっている。継続年数では1~3年の継続者が37.63%で最も多くなっている。また、この組織を知った方法では友人や家族からの口コミがほとんどであり、TV・ラジオといったマス・メディアによる入会者

はごくわずかである。活動日は週の中頃に多くなる傾向はあるものの、日曜を除く平日全体に亘っている。表1-Ⅱ-⑤に示す活動時間帯では午前中8~12時に集中している。活動回数^{注)}は週一回、活動内容はA体操という形態をとっている。

また、会費は3,000円以内であり、交通費は500円以下、運動着の費用は5,000円以下が約60%強を占めている。会では、理念の基盤となる身体の尊重と解放という目的からレオタードの着用を義務付けているが、表1-Ⅱ-⑩に示すようにその着用については「今は恥ずかしくない」と答えた者がほとんどであり、指導の成果を示すものと考えられる。

表1-Ⅲ-① 活動場所

	公営施設	会所有施設	民間施設	学校施設	職場施設	その他
全 体	170	55	126	1	13	14
	44.85	14.51	33.25	0.26	3.43	3.69

表1-Ⅲ-② 会場の広さ

	10~20坪	21~35坪	36~50坪	51坪以上
全 体	191	74	77	38
	50.26	19.47	20.26	10.00

表1-Ⅲ-③ 会場での練習可能な人数

	1~10人	11~20人	21~30人	31~40人	41人以上
全 体	100	188	56	15	21
	26.32	49.47	14.74	3.95	5.53

表1-Ⅲ-④ 会場までの所要時間

	1~10分	11~20分	21~30分	31~60分	61分以上
全 体	259	55	32	19	15
	68.16	14.47	8.42	5.00	3.95

活動を取り巻く物理的条件、即ち環境的要因に関する結果は表1-Ⅲ-①~④に示した。活動場所では公営施設および民間施設の会場が多い。また会場の広さでは20坪以内という狭い会場が大半を占めている。従って練習可能な人数も20人以下が約75%となっている。会場までの所要時間は10分以内が7割を示し、自宅近くに会場があることを示している。このように環境要因からは自宅近く、20人程度活動できる会場が多いことを示している。

表1-Ⅳ-① 運動は健康にとって不可欠であると思うかについて

	思 う	どちらでもない	思わない
全 体	309	22	46
	81.96	5.84	12.20

表1-IV-② 少々体がきつくても仕事を優先させるか否かについて

	優先させる	どちらでもない	休養する
全 体	206 56.28	73 19.95	87 23.77

表1-IV-③ 精神の自由さは身体が自由さが基盤であると思うかについて

	賛成する	わからない	思わない
全 体	331 88.74	36 9.65	6 1.61

表1-IV-④ 今、欲しいもの(一位)

	ハンサムな夫(妻)	長生き	知識・技能	金	芸術的能力	住宅や土地	地位や権力
全 体	5 1.32	33 8.68	28 7.37	20 5.26	7 1.84	9 2.37	0 0
	恋人	自由時間	幸福な家庭	健康な体	良い子供	豊かな趣味	ヨットや モーターボート
	1 0.26	13 3.42	67 17.63	152 40.00	8 2.11	7 1.84	0 0
	良い友人	やりがいのある仕事	行動の自由	着物や宝石	バイタリティー ある行動力	愛 人	
	8 2.11	11 2.89	2 0.53	1 0.26	7 1.84	0 0	

表1-IV-⑤ 自由時間のすごし方

	休 息	遊 び	別途収入	教 養	社会奉仕	知的創造	趣 味
全 体	40 10.72	15 4.02	5 1.34	41 10.99	9 2.41	15 4.02	248 66.49

表1-IV-①～⑤は会員の身体や健康その他に対する価値意識を示す項目をまとめたものである。その結果は、運動が健康にとって不可欠であることは認識しており、精神の自由さは身体が自由さが基盤であることも認識してはいるが、仕事かに迫られると仕事を優先するということであり、行動と意識が必ずしも一致しないという面を示している。また、今、欲しいものでは「健康な肉体と幸福な家庭」、自由時間のすごし方では「趣味」と答えている者が多い。このように健康や身体の価値は充分認識している人々が活動しているといえる。

表1-V-① 合同練習会への参加有無

	参 加	時々参加する	参加しない
全 体	218 57.52	61 16.09	100 26.39

表1-V-② 合同練習会への意義付け

	有意義だと思う	あった方がいい	ない方がよい	そ の 他
全 体	153 41.13	165 44.35	29 7.80	25 6.72

表1-V-③ 総会への参加経験

	あ る	な い
全 体	109 28.91	268 71.09

表1-V-④ 総会へのグループ代表の参加

	知っている	知らない
全 体	338 89.18	41 10.82

表1-V-⑤ 組織や仕組み

	知っている	部分的に知っている	知らない
全 体	170 45.09	182 48.28	25 6.63

表1-V-⑥ グループ運営への意見提案を受け入れてもらえるか

	思 う	わからない	思わない
全 体	180 47.75	184 48.81	13 3.45

表1-V-⑦ 規約について

	知っている	部分的に知っている	知らない
全 体	168 44.92	186 49.73	19 5.08

表1-V-①～⑦は組織の仕組みや規約といった運営に関する項目を示したものである。各グループが一同に会し汗を流す合同練習会へは、「時々参加」の者も含めると7割以上の者が参加している。その合同練習会に対し、肯定的な考え方を示す者が約85%を占めている。また年一回の総会への参加経験者は28.9%である。しかし、グループの代表が総会へ参加していることはほとんどの実践者が認識している。同様に組織や仕組み、規約については部分的でも知っている者を含めると90%を上回り、運営に関してはよく実践者に認識されていることを示している。

表1-VI 実践の効果について

〈目的と対応させて〉

番号	項 目	目 的	効 果
		実 (%)	実 (%)
1	健康増進	316 (83.2)	269 (71.0)
2	体力向上	176 (46.3)	219 (57.8)
3	運動欲求充足	110 (28.9)	154 (40.6)
4	老化防止	230 (60.5)	167 (44.1)
5	プロポーションをよくする	114 (30.0)	86 (22.7)
6	技術向上	1 (0.3)	41 (10.8)
7	生活を充実させる	41 (10.8)	79 (20.8)
8	仲間が出来る喜び	45 (11.8)	181 (47.8)
9	気分転換	75 (19.7)	181 (47.8)
10	人間形成	4 (1.1)	46 (12.1)
11	障害の排除	23 (6.1)	
12	よく眠れる		39 (10.3)
13	食欲が出る		66 (17.4)
14	明朗になる		38 (10.0)
15	成し遂げた満足感を得る		100 (26.4)
16	ねばり、根性が身につく		61 (16.1)
17	そ の 他		9 (2.4)

実践の効果については表1-VIに示す通りである。表中の「目的」の欄は入会の目的の重みづけをはずし、その項目を選択したか否かについて集計した結果を示したものである。効果として挙げた項目とどのように対応しているかを検討した。やはり目的として上位に挙げられている、「健康増進、体力向上、老化防止、プロポーションをよくする」といった項目を効果として挙げる者が多かった。また「仲間が出来る喜び、生活を充実させる、運動欲求の充足」等は入会時の目的からすると予想外の効果が得られたものと理解される。

指導者の指導方法に関する項目については図1に示す通りである。「指導が丁寧である，会員の体を考えてくれる，健康の知識が得られる，会員を平等に扱う，能力に応じて指導する」といった項目が50%以上の賛同を得ている。丁寧に能力に応じた指導が行われていることが窺える。

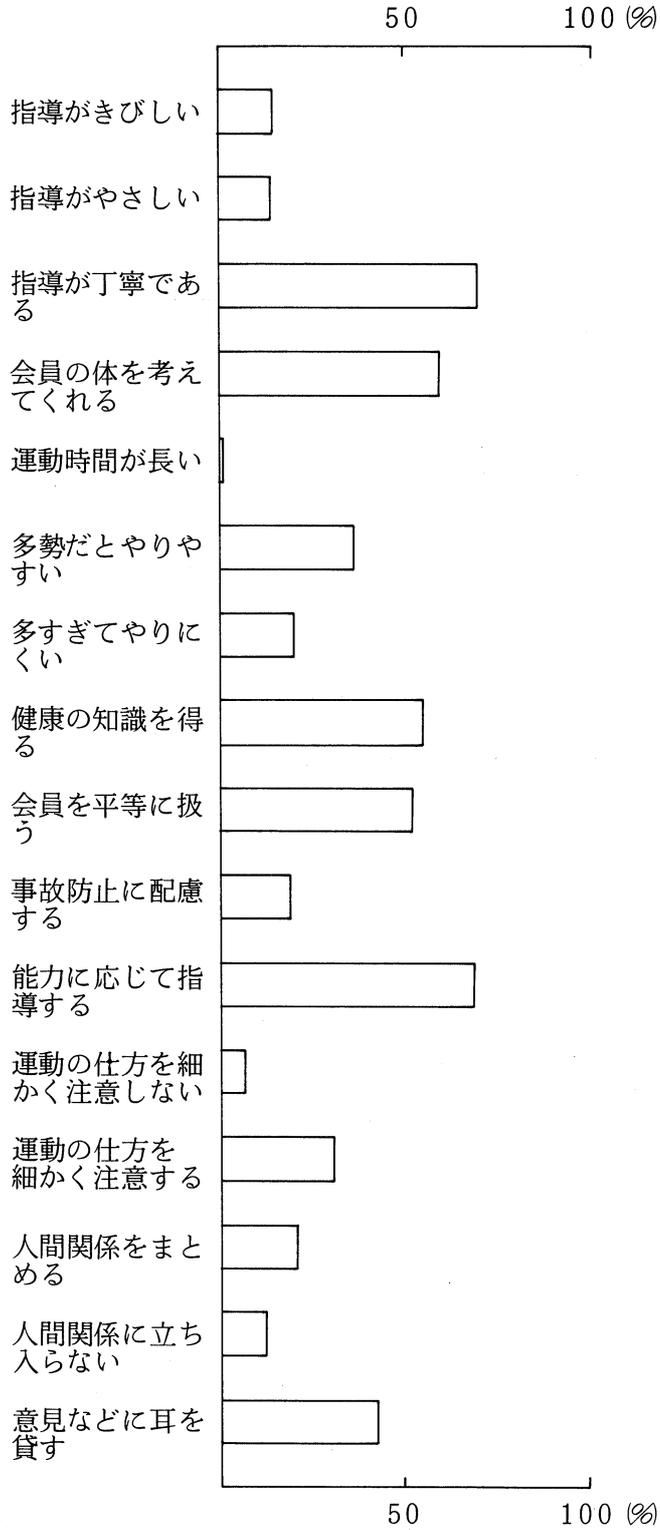


図1. 指導方法について

表1-VII-① 学校時代の運動の好き・嫌い

	好きだった	どちらでもない	嫌いだった
全 体	193 51.06	110 29.10	74 19.58

表1-VII-② 過去の運動経験

	は い	いいえ
小 学 校	40 10.64	335 89.10
中 学 校	168 44.56	209 55.44
高 校	144 40.56	211 59.44
大 学	20 16.0	105 84.0
社 会 人	275 73.53	99 26.47

表1-VII-③ TV・ラジオのスポーツ番組の視聴

	よく観る	時々観る	ほとんど観る
全 体	145 38.67	190 50.67	39 10.40

最後に、過去の運動経験や運動に対する関心度についてまとめたものが表1-VII-①～③である。学校時代の運動の好き嫌いに対しては半数の者が好きであったと答えている。また過去の運動経験をみみると中学・高校時代に約4割の者が経験ありと答えているのに留まっている。TV・ラジオのスポーツ番組の視聴では「時々観る」者を含めると9割近くを示し、関心のあることを示している。

以上の結果から体操の実践活動の特徴をまとめてみると、健康増進を求めて中高年の主婦層が参加し、週一回程度自宅近くの会場で活動している実態が浮彫りにされている。また、その実践者は健康や運動に対し価値をおき、特別に運動の得意な者ばかりでなくごく普通の実践者を持つ層が集まり自主的に活動しているといえよう。

2. 地域別分析

体操実践の継続の手がかりを得るために、本調査の対象者を都市居住者（関東・関西地区194名）、および地方居住者（鹿児島地区186名）とに分類し居住地区別に実践の実態を検討した。結果は都市居住者と地方居住者の項目間の回答パターンの差をカイ2乗検定によって比較した。更にクラマー関連係数を算出することによって、居住地区の違いと各項目間の関連度の強さを求めた。

表 2 - I - ① 実践者の年齢構成

	10~30歳	31~40歳	41~50歳	51~60歳	61歳以上
地 方 N=186	17 9.17	91 48.92	55 29.57	15 8.06	8 4.30
都 市 N=194	7 3.61	85 43.81	67 34.54	31 15.98	4 2.06

 $\chi^2 = 12.287$ ($P < .05$) クラマー .180

表 2 - I - ② 実践者の職業

	あ る	な し
地 方	54 29.19	131 70.81
都 市	40 20.73	153 79.27

表 2 - I - ③ 実践者の学歴

	小 卒	中 卒	高 卒	短大卒	大 卒	院 卒
地 方	2 1.08	4 2.15	130 69.89	42 22.58	8 4.30	0 0
都 市	0 0	8 4.12	122 62.89	46 23.71	17 8.76	1 0.52

表 2 - I - ④ 実践者の世帯収入

	100万 未 満	101~ 200万	201~ 300万	301~ 400万	401~ 500万	501~ 600万	601~ 700万	701万 以 上
地 方	1 0.54	6 3.26	24 13.04	30 16.30	38 20.65	26 14.13	19 10.33	40 21.74
都 市	2 1.03	2 1.03	5 2.58	27 13.92	29 14.95	32 16.49	26 13.40	71 36.60

 $\chi^2 = 26.26$ ($P < .001$) クラマー .263

まず基礎要因の年齢構成（表 2 - I - ①）からみると、地方では30~40歳までが多く、加齢に伴い実践者が減少する傾向にある。しかし、都市では40歳においても余り実践者が減少せずに地方よりも高年齢の主婦が所属している。これについては5%水準で有意な差となっている。実践者の学歴は地方・都市ともに高卒・短大卒の者が多く学歴においては地域間に差はみられなかった。また、世帯収入については都市の方が高収入の家庭の者が多い傾向にあった。しかしながら地方の世帯収入も全国平均を上回る者が50%近くおり、地方・都市ともに比較的経済力にゆとりのある者が実践していると考えられる。

表2-II-① 入会の目的

	健康増進	体力向上	運動欲求の充足	老化防止	プロポーションの形成	技術の向上	生活充足	仲間の獲得	気分転換	人間形成	障害の排除	その他
地方 (1110)	416 37.5	163 14.7	111 10.0	171 15.4	102 9.2	0 0	30 2.7	26 2.3	58 5.2	6 0.5	27 2.4	0 0
都市 (1163)	416 35.8	177 15.2	107 9.2	234 20.1	104 8.9	1 0.1	25 2.1	32 2.8	43 3.7	2 0.2	22 1.9	0 0

(※) 表中の整数は加重得点

表2-II-② 継続年数

	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5年以上
地方	51 27.42	54 29.03	42 22.58	39 20.97
都市	34 17.53	89 45.88	32 16.49	39 20.10

 $\chi^2 = 13.155$ ($P < .001$) クラマー .186

表2-II-③ この組織の存在を知った方法

	母	娘	姉妹	友人	T V, ラジオ	新聞	その他
地方	4 2.15	1 0.54	5 2.69	157 84.4	1 0.54	0	18 9.68
都市	4 2.06	1 0.52	2 1.03	163 84.0	0	3 1.55	21 10.82

表2-II-④ 活動日

	月	火	水	木	金	土	日
地方	21 11.29	34 18.28	44 23.66	47 25.27	39 20.97	15 8.06	0 0
都市	29 15.18	21 10.99	28 14.66	43 22.51	64 33.51	8 4.19	1 0.52

 $\chi^2 = 4.37$ ($P < .05$)

クラマー .114

 $\chi^2 = 6.84$ ($P < .01$)

クラマー .140

表2-II-⑤ 活動時間帯

	早朝	午前 (8～12時)	午後 (12～16時)	夕方 (16～18時)	夜間 (18時以降)	その他
地方	0 0	137 73.66	14 7.53	0 0	33 17.74	2 1.08
都市	2 1.04	123 63.73	45 23.32	4 2.07	19 9.84	0 0

 $\chi^2 = 28.691$ ($P < .001$) クラマー .275

表2-II-⑥ 活動回数

	週一回	週二回	週三回	それ以上
地方	171 91.94	14 7.53	0 0	0 0
都市	190 97.94	1 0.52	2 1.03	1 0.52

$\chi^2 = 16.105$
($P < .01$)
クラマー .205

表2-II-⑦ 活動内容

	A体操	B体操	A+B体操	その他
地方	126 68.11	0 0	55 29.73	4 2.16
都市	122 62.89	10 5.15	61 31.44	1 0.52

$\chi^2 = 11.967$
($P < .01$)
クラマー .177

表2-II-⑧ 会費

	~1,000円	1,001~2,000円	2,001~3,000円	3,001円~
地方	0 0	111 59.68	66 35.48	9 4.84
都市	1 0.52	9 4.66	172 89.12	11 5.70

$\chi^2 = 135.02$
($P < .001$)
クラマー .596

表2-II-⑨ 交通費

	~500円	501~1,000円	1,001円~
地方	163 87.63	3 1.61	20 10.75
都市	144 74.23	15 7.73	35 18.04

$\chi^2 = 13.10$
($P < .01$)
クラマー .185

表2-II-⑩ 運動着の費用

	~2,500円	2,501~5,000円	5,001~7,500円	7,501~10,000円	10,001円~
地方	94 50.54	32 17.20	18 9.68	34 18.28	8 4.30
都市	64 32.99	54 27.84	36 18.56	33 17.01	7 3.61

$\chi^2 = 17.24$ ($P < .01$) クラマー .213

表2-II-⑪ レオタードの着用について

	今も恥ずかしい	今は恥ずかしくない	初めから恥ずかしくない
地方	7 3.76	139 74.73	40 21.51
都市	6 3.09	148 76.29	40 20.62

次に活動要因については表2-II-①~●に示した。入会の目的では表1と同様重みづけを行い、「健康増進, 老化防止, 体力向上」の順となった。このように目的については地域による差は認められなかった。継続年数では都市が地方よりも長期に継続する傾向を示しその差は0.1%水準で有

意であった。従って、地方と都市の活動の実態を比較しその違いを検討することにより継続促進への有効な手がかりが得られるものと考えられる。この組織を知った方法は友人を通してと答えた者が地方・都市ともに圧倒的に多く、マス・コミュニケーションに依存しない口コミによるこの会の活動方針が両地域に浸透していると考えられる。活動日については地方が水・木・金に多く都市では木・金に活動している者が多くなっている。活動時間帯については地方が午前中に多く行われ、都市では午後に活動している者も23%存在している。家事の合間を縫って実践している集団があると考えられる。活動の回数については週一回が両地域の基本となっている。活動の内容では基本となるA体操実践者がほとんどであるが、都市の方がB体操以上の進んだ内容へ取り組んでいる。また活動の会費では都市の方がやや高い経費を支払っている。同様に交通費や運動着の費用といった他の経費も同傾向を示している。また、会の方針であるレオタードの着用は両地域とも差はなく身体の尊厳性を説いた成果と考えられる。

以上のように、目的やこの組織を知った方法、レオタードの着用といった項目以外の8項目にはいずれも有意な差がみられ都市の実践者の方が積極的な活動をしていることを示唆するものと考えられる。

表2-III-① 活動場所

	公営施設	会所有施設	民間施設	学校施設	職場施設	その他
地方	66 35.48	18 9.68	77 41.40	1 0.54	13 6.99	11 5.91
都市	104 53.89	37 19.17	49 25.39	0 0.00	0 0.00	0 0.00

$$\chi^2 = 39.735 \quad (P < .001) \quad \text{クラマー} .324$$

表2-III-② 会場の広さ

	10~20坪	21~35坪	36~50坪	51坪以上
地方	136 73.12	31 16.67	8 4.30	11 5.91
都市	55 28.35	43 22.16	69 35.57	27 13.92

$$\chi^2 = 91.230$$

$$(P < .001)$$

$$\text{クラマー} .490$$

表2-III-③ 会場での練習可能な人数

	1~10人	11~20人	21~30人	31~40人	41人以上
地方	62 33.3	115 61.83	1 0.54	1 0.54	7 3.76
都市	38 19.59	73 37.63	55 28.35	14 7.22	14 7.22

$$\chi^2 = 80.681 \quad (P < .001) \quad \text{クラマー} .461$$

表2-Ⅲ-④ 会場までの所要時間

	1～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61分以上
地 方	149 80.11	21 11.29	9 4.84	7 3.76	0 0.00
都 市	110 56.70	34 17.53	23 11.86	12 6.19	15 7.73

$$\chi^2 = 31.231 (P < .001) \text{ クラマー } .287$$

表2-Ⅲ-①～④は環境要因に関する項目を示したものである。まず活動の基盤となる活動場所の種類では、地方が民間施設が最も多くなっている。都市では公営施設が半数を占めている。地方よりも民間企業が多く、民間施設には恵まれていると考えられる都市において民間施設での実践者が少なく地方で多い。このような実態は地方における公的施設の数が不足しているのかあるいは必要な会費を徴収する非営利団体の活動に対する公的機関の理解不足を示すものと考えられる。会場の広さでは地方は10～20坪の広さの会場が7割を占め、都市では35～50坪の広さをもつ会場が多い。地方より都市の方が広い会場で活動している状況が窺える。従って練習可能な人数も都市の方が有意に多くなっている。また会場までの所要時間では、地方が10分以内の者が8割を占め都市ではそれよりも遠くから通う者が約43%存在している。以上のように活動を取り巻く環境要因においては、地方と都市の間に大きな差が認められた。すなわち、地方よりも都市の方が公的施設で且つ広くやや遠い会場へ通いながら実践していることを示唆している。

表2-Ⅳ-① 運動は健康にとって不可欠であると思うかについて

	思 う	どちらでもない	思わない
地 方	152 82.16	13 7.03	20 10.81
都 市	157 81.77	9 4.69	26 13.54

表2-Ⅳ-② 少々体がきつくても仕事を優先させるか否かについて

	優先させる	どちらでもない	休養する
地 方	104 58.10	39 21.79	36 20.11
都 市	102 54.55	34 18.18	51 27.27

表2-Ⅳ-③ 精神の自由さは身体が自由さが基盤であると思うかについて

	賛成する	わからない	思わない
地 方	155 85.16	25 13.74	2 1.10
都 市	176 92.15	11 5.76	4 2.09

$$\chi^2 = 7.230$$

$$(P < .05)$$

$$\text{クラマー } .139$$

表2-IV-④ 今、欲しいもの(一位)

	ハンサムな夫(妻)	長生き	知識・技能	金	芸術的能力	住宅や土地	地位と権力
地 方	3 1.61	18 9.68	13 6.99	7 3.76	3 1.61	4 2.15	0 0
都 市	2 1.03	15 7.73	15 7.73	13 6.70	4 2.06	5 2.58	0 0
	恋 人	自由時間	幸福な家庭	健康な肉体	良い子供	豊かな趣味	ヨットや モーターボート
地 方	1 0.54	8 4.30	39 20.97	68 36.56	7 3.76	2 1.08	0 0
都 市	0 0	5 2.58	28 14.43	84 43.30	1 0.52	5 2.58	0 0
	良い友人	やりがいのある仕事	行動の自由	着物や宝石	バイタリティー ある行動力	愛 人	
地 方	2 1.08	6 3.23	1 0.54	1 0.54	3 1.61	0 0	
都 市	6 3.09	5 2.58	1 0.52	0 0	4 2.06	0 0	

表2-IV-⑤ 自由時間の過ごし方

	休 息	遊 び	別途収入	教 養	社会奉仕	知的創造	趣 味
地 方	23 12.71	5 2.76	1 0.55	17 9.39	7 3.87	5 2.76	123 67.96
都 市	17 8.85	10 5.21	4 2.08	24 12.50	2 1.04	10 5.21	125 65.10

表2-IV-①～⑤ は価値意識要因を示している。運動は健康にとって不可欠であるかという点については両地域ともに約80%の者が「思う」と答えており、健康における運動の価値意識には差が認められなかった。さらに、「少々身体がきつくとともに仕事を優先させるか」については「仕事優先」と両地域とも半数の者が回答している。やはり行動面と意識が必ずしも一致しない実態を反映している。「精神の自由さは身体²⁾の自由さが基盤であるか」については賛成する意見が圧倒的である。また、「今、欲しいもの」は何かという質問に対しては両地域ともに物質的なものより精神的なものに価値をおく実践者が多いことを示唆している。因みに昭和44年の同項目の調査では「幸福な家庭(42%)・健康な肉体(39%)」が上位を占めている。自由な時間の過ごし方も実践者全体の傾向と同様に「趣味」と回答した者が多く、昭和44年の調査結果と同傾向を示している(47%)。このように、健康その他に対する価値意識要因では地域の違いによる差は認められず同じ意識を持って活動を行っていると思われる。

表2-V-① 合同練習会への参加有無

	参 加	時々参加する	参加しない
地 方	84 45.41	39 21.08	62 33.51
都 市	134 69.07	22 11.34	38 19.59

$\chi^2 = 21.764$
($P < .001$)
クラマー .239

表2-V-② 合同練習会への意義付け

	有意義だと思う	あった方がいい	ない方がいい	その他
地方	75 41.21	79 43.41	13 7.14	15 8.24
都市	78 41.05	86 45.26	16 8.42	10 5.26

表2-V-③ 総会への参加経験

	あ る	な い
地方	57 30.81	128 69.19
都市	52 27.08	140 72.92

◎ 合同練習会への参加経験と同会への意義付けの関連

	有意義だと思う	あった方がいい	ない方がいい	その他
参加	120 32.26	77 20.70	15 4.03	4 1.08
時々参加	16 4.30	39 10.48	5 1.34	1 0.27
参加したことなし	17 4.57	49 13.17	9 2.42	20 5.38

(P<.001) (クramer .320)

表2-V-④ 総会へのグループ代表の参加

	知っている	知らない
地方	167 89.78	19 10.22
都市	171 88.60	22 11.40

表2-V-⑤ 組織や仕組み

	知っている	部分的に知っている	知らない
地方	86 46.74	82 44.57	16 8.70
都市	84 43.52	100 51.81	9 4.66

表2-V-⑥ グループ運営への意見提案を受け入れてもらえるか

	思 う	わからない	思わない
地方	93 50.27	86 46.49	6 3.24
都市	87 45.31	98 51.04	7 3.65

表2-V-⑦ 規約

	知っている	部分的に知っている	知らない
地 方	80 43.48	94 51.09	10 5.43
都 市	88 46.32	92 48.42	9 4.74

表2-V-①~⑦に示す運営要因では、会の企画している合同練習会への参加に対し都市の実践者の方がより積極的に参加している点を除いて、地方と都会の差は認められなかった。すなわち、会の運営に関しては両地域に同様な受けとめ方がなされていると考えられ、その内容は肯定的であると思われる。

表2-VI 実践の効果について <目的と対応させて>

番号	項 目	<目 的>		<効 果>		χ^2 検定	クラマー係数
		地 方 実 (%)	都 市 実 (%)	地 方 実 (%)	都 市 実 (%)		
1	健康増進	157 (85.32)	159 (82.38)	136 (73.12)	133 (68.91)	4.006 *	.111
2	体力向上	82 (44.56)	94 (48.70)	112 (60.22)	107 (55.44)		
3	運動欲求充足	54 (29.34)	56 (29.01)	82 (44.09)	72 (37.31)		
4	老化防止	103 (55.97)	127 (65.80)	82 (44.09)	85 (44.04)		
5	プロポーションをよくする	60 (32.60)	54 (27.97)	47 (25.27)	39 (20.21)		
6	技術向上	0 (0)	1 (0.51)	15 (8.06)	26 (13.47)		
7	生活を充実させる	23 (12.5)	18 (9.32)	47 (25.27)	32 (16.58)		
8	仲間が出来る喜び	21 (11.41)	24 (12.43)	90 (48.39)	91 (47.15)		
9	気分転換	39 (21.19)	36 (18.65)	87 (46.77)	94 (48.70)		
10	人間形成	2 (1.08)	2 (1.03)	30 (16.13)	16 (8.29)		
11	障害の排除	13 (7.06)	10 (5.18)				
12	よく眠れる			18 (9.68)	21 (10.88)		
13	食欲が出る			27 (14.52)	39 (20.21)		
14	明朗になる			25 (13.44)	13 (6.74)		
15	成し遂げた満足感を得る			49 (26.34)	51 (26.42)		
16	ねばり、根性が身につく			30 (16.13)	31 (16.06)		
17	そ の 他						

* (p<.05)

表2-VIに示す実践の効果では、目的の上位に挙げられた「健康増進、老化防止、体力向上」が実践の効果としても上位に挙げられている。また「仲間が出来る喜び、生活を充実させる、運動欲求の充足」など予想外の効果も得られているものと思われ、両地域間での差も「明朗になる」という項目以外には差が認められなかった。

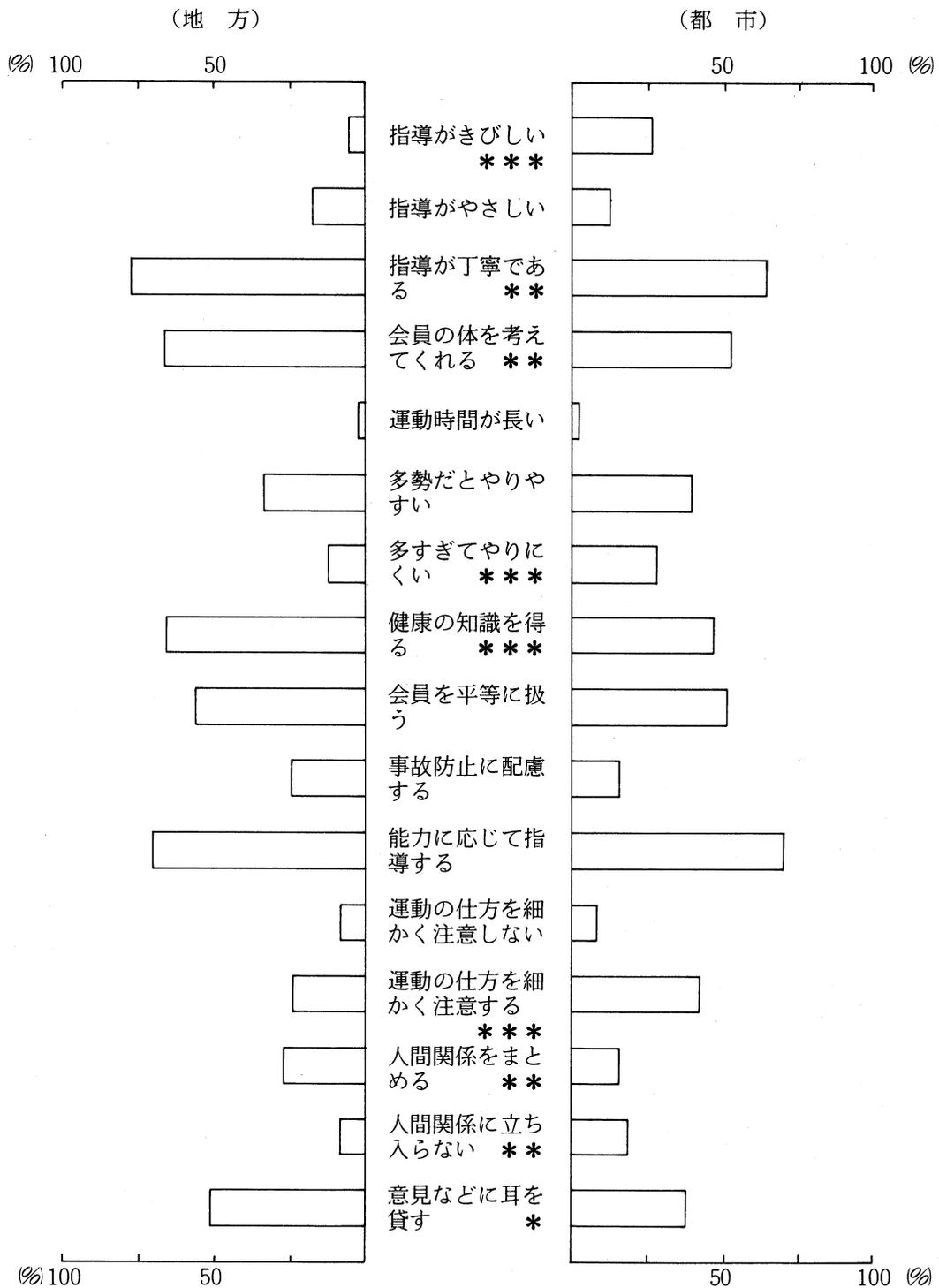


図2. 指導方法について *** P<.001 ** P<.01 * P<.05

図2に示す指導者の指導方法に関しては地方と都市では「指導がきびしい、指導が丁寧である、会員の体を考えてくれる、多すぎてやりにくい、健康の知識が得られる、運動の仕方を細かく注意する、人間関係をまとめる、人間関係に立ち入らない、意見などに耳を貸す」といった多くの点に差が認められた。これらは相対的に都市の指導者が指示的な、地方の指導者が援助的な指導を行っ

ていることを示唆している。

表2-VII-① 学校時代の運動の好き・嫌い

	好きだった	どちらでもない	嫌いだった
地 方	90 48.39	59 31.72	37 19.89
都 市	103 53.65	51 26.56	37 19.27

表2-VII-② 過去の運動経験

		は い	いいえ	
小 学 校	地 方	15 8.06	170 91.40	
	都 市	25 13.16	165 86.84	
中 学 校	地 方	70 37.84	115 62.16	$\chi^2 = 6.125$ ($P < .05$) クラマー .132
	都 市	98 51.04	94 48.96	
高 校	地 方	59 32.78	121 67.22	$\chi^2 = 8.536$ ($P < .01$) クラマー .160
	都 市	85 48.57	90 51.43	
大 学	地 方	7 14.29	42 85.71	
	都 市	13 17.11	63 82.89	
社 会 人	地 方	141 76.63	43 23.37	
	都 市	134 70.53	56 29.47	

表2-VII-③ TV・ラジオのスポーツ番組の視聴

	よく観る	時々観る	ほとんど観ない
地 方	64 35.36	97 53.59	20 11.05
都 市	81 41.75	93 47.94	19 9.79

最後に運動意識要因について表2-VII-①~③に示した。学校時代の運動の好き嫌いについては「好き」と答えた者が半数を占め両地域に差は認められなかった。学校時代の運動経験では都市の実践者が中学、高校時代に積極的に活動していたことを示している。また、スポーツ番組に関する関心度も両地域において差は認められなかった。

以上のことから、居住地区の違いによる活動実態を検討してみると、都市では年齢的に高い者が実践に費やす時間を地地方程苦にせず、しかも長い継続期間を維持していると理解できる。従って、

実践活動の理念に対する理解や運営に対する理解など精神面の差は認められないが、その理解、理念を実行に移す行動力において差があると考えられ、その行動力の差の原因を究明する必要があると考えられる。また活動場所の例にもみられるように都市は地方に比較して環境に恵まれていると考えられる。継続を促進するために改善されるべき点としては、会場の解放など活動環境の整備や公的機関への積極的な働きかけが必要と思われる。

3. 継続期間別分析

詳細に継続への手がかりを得るため同調査結果を継続年数の長短から検討を加えた。本調査の対象者を継続年数二年未満の者(141名)および三年以上の者(130名)に分類し、各項目間の回答パターンを地域別分析と同様カイ2乗検定により分析した。また、クラマー関連度係数を求めた。

さらに、継続年数を外的基準とし林の数量化理論第Ⅱ類を用い継続年数の長短を規定している要因の分析を行った。外的基準をこのような構成にせざるを得なかったのは、もっぱら統計的分析に耐えうるような標本数の確保を考慮したためである。例えば二年未満と七年以上というように、外的基準グループの対照群をもっと明確にする程の標本数が確保できれば、さらに特徴点を浮かび上がらせる分析も可能となってくるが、これは今後の課題としておきたい。すなわち、クロス集計結果に基づくカイ2乗検定や単相関だけでは表面的な関連を示すに留まる場合があり真の影響度を知り得たことにはならない。例えば、ある現象に対し、年齢と収入の相方に関連がみられた場合年齢の高い者は収入が高いといった項目間の相関部分も含まれ、真の影響度を示すとは限らない。林の数量化理論第Ⅱ類は、一つの設問項目の回答パターンを外的基準とし他の設問項目とどのように関連しているか、つまり他の設問項目の外的基準項目に対する影響度を数量的に把握することができ⁶⁾⁷⁾る。尚、この手法を用いるため項目数(変数)と選択肢数(カテゴリー)を精選した。

(1) クロス集計結果

表3-I-① 実践者の年齢構成

	10~30歳	31~40歳	41~50歳	51歳~
二年未満 (141名)	17 9.77	96 55.17	40 22.99	21 12.07
三年以上 (130名)	5 3.09	52 32.10	73 45.06	32 19.75

$$\chi^2 = 31.157 (p < .001) \text{ クラマー } .304$$

表3-I-② 実践者の職業

	あ る	な し
二年未満	42 24.28	131 75.72
三年以上	35 21.74	126 78.26

表3-I-③ 実践者の学歴

	～中 卒	高 卒	短大卒～
二年未満	7 4.02	118 67.82	49 28.16
三年以上	5 3.09	108 66.67	49 30.25

表3-I-④ 実践者の世帯収入

	～300万	301～500万	501～700万	701万以上
二年未満	22 12.64	63 36.21	45 25.86	42 24.14
三年以上	14 8.64	46 28.40	45 27.78	57 35.19

基礎要因を表3-I-①～④に示した。二年以下の継続者では30歳代が多く、三年以上の者では40歳以上が多くなっている。他の職業、学歴、世帯収入といった項目には差がみられなかった。

表3-II-① 入会の目的

	健 康 増 進	体 力 向 上	運 動 欲 求 の 充 足	老 化 防 止	プ ロ ポ ー シ ョ ン の 形 成	技 術 の 向 上	生 活 充 足	仲 間 の 獲 得	気 分 転 換	人 間 形 成	障 害 の 排 除	そ の 他
二年未満 (1041)	380 36.50	158 15.17	110 10.56	180 17.29	86 8.26	1 0.09	19 18.25	27 2.59	52 4.99	3 0.28	25 2.40	0 0
三年以上 (969)	364 37.56	148 15.27	87 8.97	176 18.16	93 9.59	0 0	28 2.88	23 2.37	37 3.81	5 0.51	8 0.82	0 0

(※) 表中の整数は加重得点

表3-II-② この組織の存在を知った方法

	母	娘	姉 妹	友 人	T V, ラジ オ	新 聞	そ の 他
二年未満	2 1.15	0 0	5 2.87	159 91.38	0 0	2 1.15	6 3.45
三年以上	4 2.47	1 0.62	1 0.62	145 89.50	1 0.62	1 0.62	9 5.56

表3-II-③ 活 動 日

	月	火	水	木	金	土	日
二年未満	23 13.29	21 12.14	42 24.28	30 17.34	51 29.48	8 4.62	1 0.58
三年以上	21 13.04	24 14.91	22 13.66	50 31.06	41 25.47	14 8.70	0 0

$$\chi^2 = 5.39 \quad \chi^2 = 7.87$$

$$(P < .05) \quad (P < .01)$$

表3-II-④ 活動時間帯

クラマー .134 クラマー .160

	早 朝	午 前 (8～12時)	午 後 (12～16時)	夕 方 (16～18時)	夜 間 (18時以降)	そ の 他
二年未満	0 0	128 73.99	26 15.03	0 0	18 10.40	1 0.58
三年以上	2 1.23	107 66.05	31 19.14	3 1.85	18 11.11	1 0.62

表3-II-⑤ 活動回数

	週一回	週二回	週三回	それ以上
二年未満	170 97.70	0 0	2 1.15	1 0.57
三年以上	150 92.59	12 7.41	0 0	0 0

$\chi^2 = 16.842$
($P < .01$)
クラマー .223

表3-II-⑥ 活動内容

	A体操	B体操	A+B体操	その他
二年未満	120 68.97	1 0.57	52 29.89	1 0.57
三年以上	99 61.49	8 4.97	50 31.06	4 2.48

$\chi^2 = 8.806$
($P < .05$)
クラマー .162

表3-II-⑦ 会費

	~1,000円	1,001~2,000円	2,001~3,000円	3,001円~
二年未満	0 0	53 30.46	119 68.39	2 1.15
三年以上	1 0.62	50 30.86	96 59.26	15 9.26

$\chi^2 = 13.007$
($P < .01$)
クラマー .197

表3-II-⑧ 交通費

	~500円	501~1,000円	1,001円~
二年未満	157 90.23	6 3.45	11 6.32
三年以上	110 67.90	10 6.17	42 25.93

$\chi^2 = 27.011$
($P < .001$)
クラマー .283

表3-II-⑨ 運動着の費用

	~2,500円	2,501~5,000円	5,001~7,500円	7,501~10,000円	10,001円~
二年未満	67 38.51	39 22.41	30 17.24	34 19.34	4 2.30
三年以上	70 43.21	32 19.75	21 12.96	28 17.28	11 6.79

表3-II-⑩ レオタードの着用について

	今も恥ずかしい	今は恥ずかしくない	初めから恥ずかしくない
二年未満	8 4.60	136 78.16	30 17.24
三年以上	4 2.47	116 71.60	42 25.93

活動要因に関する項目は表3-II-①~⑩に示された通りである。入会の目的、この組織を知った方法、活動時間帯、運動着の費用、レオタードの着用といった項目には差が認められなかった。しかし、活動日、活動回数、会費、交通費といった項目は継続年数の違いによる有意な差が認められた。すなわち、継続の長い者の方がより高い経費を払い遠い所から通っており、不利な条件で

あっても積極的に実践している状況が窺える。

表3-III-① 活動場所

	公営施設	会所有施設	民間施設	学校施設	職場施設	その他
二年未満	85 49.13	18 10.40	58 33.53	1 0.58	6 3.47	5 2.89
三年以上	58 35.80	34 20.99	56 34.57	0 0	7 4.32	7 4.32

$\chi^2 = 11.117$ ($P < .05$) クラマー .182

表3-III-② 会場の広さ

	10~20坪	21~35坪	36~50坪	51坪以上
二年未満	90 51.72	42 24.14	21 12.07	21 12.07
三年以上	73 45.06	28 17.28	49 30.25	12 7.41

$\chi^2 = 17.821$

($P < .001$)

クラマー .230

表3-III-③ 会場での練習可能な人数

	1~10人	11~20人	21人~
二年未満	59 33.91	82 47.13	33 18.97
三年以上	32 19.75	80 49.38	50 30.86

$\chi^2 = 11.103$

($P < .01$)

クラマー .181

表3-III-④ 会場までの所要時間

	1~10分	11~20分	21~30分	31分~
二年未満	129 74.14	28 16.09	11 6.32	6 3.45
三年以上	96 59.26	21 12.96	19 11.73	26 16.05

$\chi^2 = 20.07$

($P < .001$)

クラマー .244

表3-III-⑤ 会場の広さについて

	適当と思う	どちらでもない	適当と思わない
二年未満	109 65.66	29 17.47	28 16.87
三年以上	116 74.36	17 10.9	23 14.74

表3-III-①~⑤は環境要因を示したものである。活動場所の種類では会所有の施設で実践している者が長期継続者に多く、会の活動拠点をもつことも重要であることを示唆するものと思われる。また、長期継続者の方が自宅から遠く広い場所で多くの人と共に実践しているといえる。

表3-IV-① 運動は健康にとって不可欠であると思うかについて

	思 う	どちらでもない	思わない
二年未満	135 78.95	10 5.85	26 15.20
三年以上	140 86.42	8 4.94	14 8.64

表3-IV-② 少々体がきつなくても仕事を優先させるか否かについて

	優先させる	どちらでもない	休養する
二年未満	88 52.38	33 19.64	47 27.98
三年以上	93 58.86	33 20.89	32 20.25

表3-IV-③ 精神の自由さは身体が自由さが基盤であると思うかについて

	賛成する	わからない	思わない
二年未満	149 86.63	20 11.63	3 1.74
三年以上	146 91.82	11 6.92	2 1.26

表3-IV-④ 今、欲しいもの

	ハンサムな夫(妻)	長生き	知識・技能	金	芸術的能力	住宅や土地	地位と権力
二年未満	2 1.15	19 10.92	10 5.75	12 6.90	5 2.87	6 3.45	0 0
三年以上	3 1.85	11 6.79	12 7.41	5 3.09	1 0.62	3 1.85	0 0
	恋 人	自由時間	幸福な家庭	健康な肉体	良い子供	豊かな趣味	ヨットや モーターボート
二年未満	0 0	7 4.02	31 17.82	66 37.93	3 1.72	4 2.30	0 0
三年以上	1 0.62	5 3.09	24 14.81	72 44.44	5 3.09	3 1.85	0 0
	良い友人	やりがいのある仕事	行動の自由	着物や宝石	バイタリテッ ある行動力	愛 人	
二年未満	2 1.15	4 2.30	0 0	1 0.57	2 1.15	0 0	
三年以上	5 3.09	6 3.70	2 1.23	0 0	3 1.85	0 0	

表3-IV-⑤ 自由時間の過ごし方

	休 息	遊 び	別途収入	教 養	社会奉仕	知的創造	趣 味
二年未満	23 13.61	8 4.73	3 1.78	18 10.65	1 0.59	3 1.78	113 66.86
三年以上	14 8.75	5 3.13	2 1.25	16 10.00	6 3.75	10 6.25	107 66.88

表3-IV-①～⑤は価値意識要因を示している。この要因に関しては継続年数の長短による差は

認められなかった。

表3-V-① 合同練習会への参加有無

	参 加	時々参加する	参加しない	
二年未満	86 49.71	14 8.09	73 42.20	$\chi^2 = 45.587$ ($P < .001$) クラマー .368
三年以上	107 66.05	37 22.84	18 11.11	

表3-V-② 合同練習会への意義付け

	有意義だと思う	あった方がいい	ない方がいい	そ の 他	
二年未満	61 36.09	76 44.97	16 9.47	16 9.47	$\chi^2 = 11.344$ ($P < .01$) クラマー .189
三年以上	74 46.54	72 45.28	10 6.29	3 1.89	

表3-V-③ 総会への参加経験

	あ る	な い
二年未満	24 14.04	147 85.96
三年以上	75 46.30	87 53.70

$\chi^2 = 39.914$ ($P < .001$) クラマー .352

表3-V-④ 総会へのグループ代表の参加

	知っている	知らない
二年未満	148 85.06	26 14.94
三年以上	155 96.27	6 3.73

$\chi^2 = 10.912$ ($P < .001$) クラマー .190

表3-V-⑤ 組織や仕組み

	知っている	部分的に知っている	知らない
二年未満	60 34.48	93 53.45	21 12.07
三年以上	97 60.63	60 37.50	3 1.88

$\chi^2 = 28.801$ ($P < .001$) クラマー .293

表3-V-⑥ グループ運営への意見提案を受け入れてもらえるか

	思 う	わからない	思わない
二年未満	72 41.38	97 55.75	5 2.87
三年以上	92 57.50	62 38.75	6 3.75

$\chi^2 = 9.664$ ($P < .01$) クラマー .170

表3-V-⑦ 規約

	知っている	部分的に知っている	知らない
二年未満	63 36.84	95 55.56	13 7.60
三年以上	92 57.50	63 39.38	5 3.13

$\chi^2 = 15.113$ ($P < .001$) クラマー .213

運営要因に関しては表3-V-①~⑦に示した通りである。どの項目にも継続年数の長短による有意な差が認められた。継続年数の長い者程、肯定的な意見をもち組織の仕組みについても認識が深いといえる。

すなわち、継続年数の長短によって価値意識や目的意識において差はないが、活動方法や運営に対する認識においては差があることを示唆している。

表3-VI 実践の効果について <目的と対応させて>

番号	項 目	<目 的>		<効 果>		χ^2 検定	クラマー係数
		二年未満 実 (%)	三年以上 実 (%)	二年未満 実 (%)	三年以上 実 (%)		
1	健康増進	144 (83.23)	138 (85.71)	112 (64.74)	128 (79.01)	7.700 **	.158
2	体力向上	84 (48.55)	75 (46.58)	93 (53.76)	104 (64.20)		
3	運動欲求充足	56 (32.36)	42 (26.08)	75 (43.55)	60 (37.04)		
4	老化防止	99 (57.22)	104 (64.59)	62 (35.84)	87 (53.70)	10.101 ***	.179
5	プロポーシヨンをよくする	50 (28.90)	51 (31.67)	30 (17.34)	50 (30.86)	7.689 **	.158
6	技術向上	1 (0.57)	0 (0)	16 (9.25)	20 (12.35)		
7	生活を充実させる	14 (8.09)	16 (9.93)	35 (20.23)	37 (22.84)		
8	仲間が出来る喜び	20 (11.56)	19 (11.80)	82 (47.4)	82 (50.62)		
9	気分転換	38 (21.96)	37 (22.98)	94 (54.34)	68 (41.98)	4.634 *	.123
10	人間形成	1 (0.57)	3 (1.86)	13 (7.51)	29 (17.90)	7.310 **	.156
11	障害の排除	13 (7.51)	4 (2.48)				
12	よく眠れる			22 (12.72)	13 (8.02)		
13	食欲が出る			36 (20.81)	23 (14.20)		
14	明朗になる			14 (8.09)	21 (12.96)		
15	成し遂げた満足感を得る			39 (22.54)	47 (29.01)		
16	ねばり、根性が身につく			20 (11.56)	35 (21.60)	5.440 *	.135
17	そ の 他						

***($p < .001$) **($p < .01$) *($p < .05$)

実践の効果に関しては表3-VIに示す通りである。「健康増進、老化防止、プロポーシヨンをよくする、気分転換、人間形成、ねばり・根性が身につく」といった項目に有意な差が認められた。

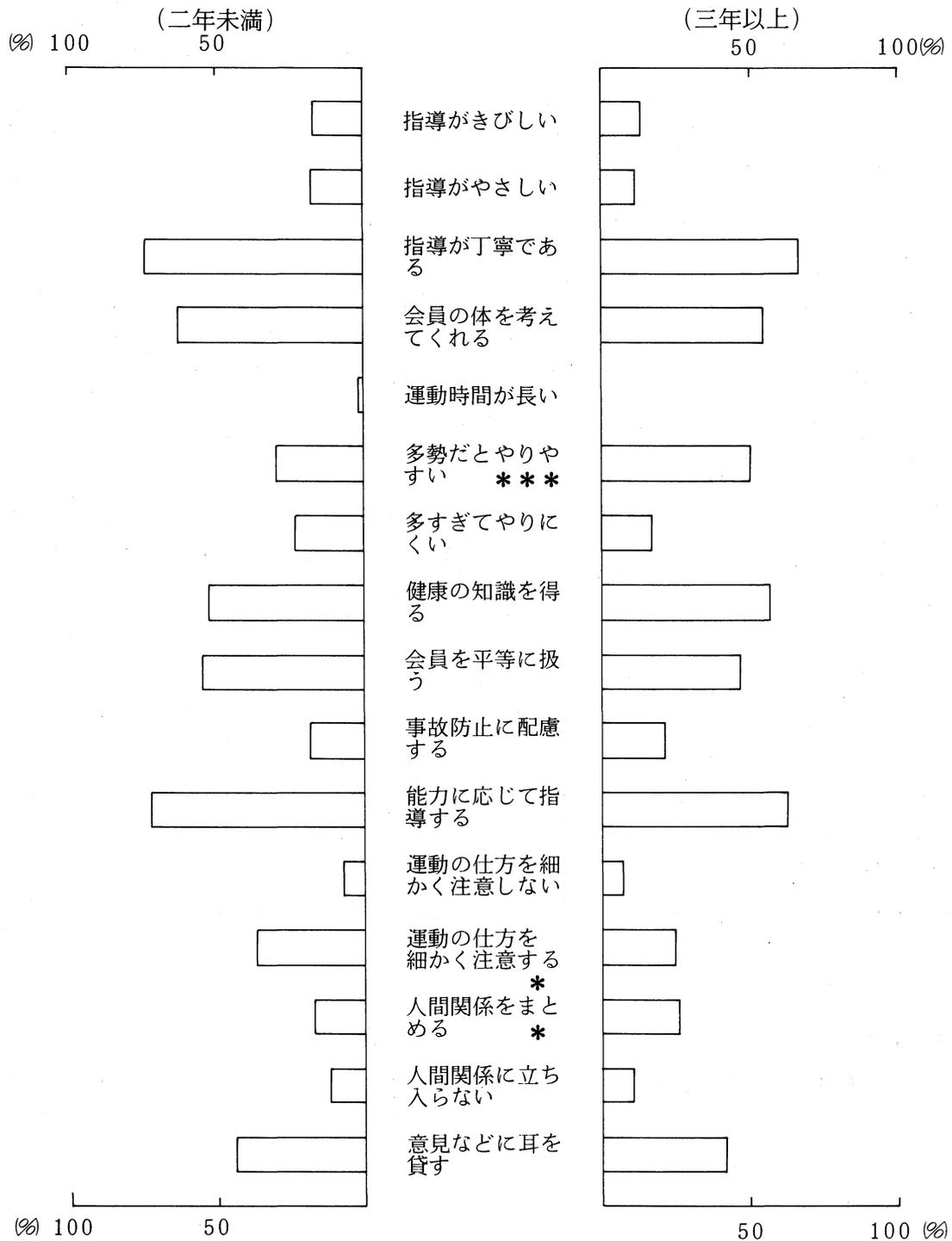


図3. 指導方法について

*** (P<.001) * (P<.05)

次に、図3に示す指導要因に関しては「大勢だとやりやすい、運動の仕方を細かく注意する、人間関係をまとめる」の三項目にのみ有意な差が認められた。

表3-VII-① 学校時代の運動の好き・嫌い

	好きだった	どちらでもない	嫌いだった
二年未満	86 49.43	51 29.31	37 21.26
三年以上	84 51.85	46 28.4	31 19.14

表3-VII-② 過去の運動経験

		は い	いいえ
小 学 校	二年未満	13 7.6	157 91.81
	三年以上	23 14.29	138 85.71
中 学 校	二年未満	76 44.44	95 55.56
	三年以上	71 43.83	91 56.17
高 校	二年未満	63 39.38	97 60.63
	三年以上	61 40.40	91 59.60
大 学	二年未満	8 13.79	50 86.21
	三年以上	10 20.41	39 79.59
社 会 人	二年未満	131 77.06	39 22.94
	三年以上	113 70.19	48 29.81

表3-VII-③ TV・ラジオのスポーツ番組の視聴

	よく観る	時々観る	ほとんど観ない
二年未満	62 36.05	88 51.16	21 12.21
三年以上	73 45.63	76 47.5	11 6.88

最後に運動に対する意識要因に関する結果を表3-VII-①～③に示した。継続年数の違いによる顕著な差は認められなかった。

以上のように、継続年数の長短による実践の実態では、基礎要因の中の年齢構成、活動要因、環境要因、運営要因の中に差が認められた。地域別分析と同様精神面での差は認められないが活動を取り巻く環境や運営面への認識に差があり、これらの要因に対してより詳細な検討が必要と考えられる。

(2) 数量化Ⅱ類による分析結果

継続年数の長短を規定する変数にはまず表-4-1に示すように「年齢」が挙げられている。カテゴリースコアにもみられるように加齢に伴い長期に継続する傾向にあり、健康維持のために運動実践を継続することの重要性を年齢が切実に感じさせているものと考えられる。

表-4-1 主婦の体操実践の継続年数を規定する要因の分析
(林の数量化Ⅱ類による)

変数	カテゴリー	カテゴリースコア	偏相関	変数	カテゴリー	カテゴリースコア	偏相関
年 齢	1. ~30歳	.570	.316 ***	活動回数	1. 週1回	.000	.186 **
	2. 31~40歳	.327			2. 週2回	-.392	
	3. 41~50歳	-.286			3. 週3回	2.058	
	4. 51歳~	-.435			4. 週4回~	.041	
年総会への参加経験	1. ある	-.471	.285 ***	会 費	1. 1,000~2,000円	-.170	.172 **
	2. ない	.201			2. 2,001~3,000円	.127	
会場での練習可能な人数	1. ~10人	.435	.264 ***		3. 3,001円~	-.491	
	2. 11~20人	-.110		時 間 帯	1. 早 朝	.413	.172 **
	3. 21人~	-.283			2. 午前8~12時	-.067	
会場の広さ	1. ~20坪	.024	.227 ***		3. 午後12~16時	.278	
	2. 21~35坪	.282			4. 午後16~18時	-1.072	
	3. 36~50坪	-.466			5. 午後18時~	.113	
	4. 51坪~	.312		今、欲しいもの	1. 長生き	.256	.161 **
活動場所	1. 公営施設	.082	2. 知識技能		.268		
	2. 会所有施設	.062	3. お金		.145		
	3. 民間施設	-.204	4. 自由時間		-.241		
	4. 学校施設	2.799	5. 幸福な家庭		-.116		
	5. 職場施設	.148	6. 健康な肉体		-.013		
目 的	1. 健康増進	-.076	.209 ***		7. やりがいのある仕事	-.425	
	2. 体力向上	.154		年総会への代表参加を知っているか	1. 知っている	-.049	.148 *
	3. 欲求充足	.211			2. 知らない	.451	
	4. 老化防止	.420		大勢だとやりやすい	1. いいえ	.117	.143 *
	5. プロポーション	-.460			2. は い	-.191	
収 入	1. ~300万	-.099	.205 ***	社会人での運動経験(この活動のみ)	1. いいえ	-.232	.137 *
	2. 301~500万	.194			2. は い	.080	
	3. 501~700万	-.320		自由時間の過ごし方	1. 休 息	.237	.126 *
	4. 701万~	.123			2. 遊 び	.100	
合同練習会への参加	1. 参加する	-.020	.197 **		3. 別途収入	.617	
	2. 時々参加する	-.408		4. 教 養	-.028		
	3. 参加しない	.245		5. 社会奉仕	.262		
運動着の費用	1. ~2,500円	-.126	.189 **	6. 知的創造	-.023	.121 *	
	2. 2,501~5,000円	-.176		7. 趣 味	-.060		
	3. 5,001~7,500円	.199		TV・ラジオスポーツ番組の視聴	1. よく観る		.131
	4. 7,501~10,000円	.300			2. 時々観る		-.120
	5. 10,001円~	.127			3. ほとんど観ない		.090

外的基準 継続年数 2年未満 平均数値 .710
継続年数 3年以上 平均数値 -.771

相関比 .548
*** (P< .001) ** (P< .01) * (P< .05)

他に0.1%水準で有意な偏相関のみられた変数は、「年総会への参加経験、会場での練習可能な人数、活動場所」といったものである。「年総会への参加経験」についてのカテゴリースコアをみると、参加したことのある者が長期の継続と結びついており、総会へ参加したことにより継続への動機づけがなされたものと思われる。「会場での練習可能な人数」では、11~20人および20人以上というカテゴリーにスコアが高い。このことは10人以下ではなかなか継続しにくく、20人前後の人数で実践することが望ましいことを示唆するものと思われる。また「目的」に関しては、「健康増進」、「プロポーション」にスコアが高い。健康増進の目的もさることながら、プロポーションを良くしたいという現実的な目的意識が実践を継続させうるものと考えられる。「収入」については500~700万程度の世帯収入のある者が長期に継続する傾向を示している。他の分析同様全国平均以上の所得を持ち経済的に余裕のある事が長期の継続に影響を与えている。

次に1%水準で有意な偏相関のみられた変数は、「合同練習会への参加、運動着の費用、活動回数、会費、時間帯、今欲しいもの」といったものである。合同練習会に関しては、「参加する、時々参加する」というカテゴリーにスコアが高く、合同練習会が普段の活動に変化をもたせ、さらに継続への刺激となっているものと思われる。また運動着の費用は5,000円程度なら継続のブレーキにならず、活動回数も週二回までなら実践可能ということを示唆していると思われる。活動の時間帯は午前中か夕方に実施される方が長期の継続と結びつくことを示し、専業主婦だけでなく有職婦人にも活動可能な配慮も重要と考えられる。「今欲しいもの」に関するカテゴリースコアからは、健康で自由な充実した生活に価値をおく人々が長期継続する傾向にあることを示すと考えられる。

さらに、5%水準で有意な偏相関のみられた変数は、「年総会への代表参加を知っているか、大勢だとやりやすい、社会人での運動経験、自由時間の過ごし方、TV・ラジオのスポーツ番組の視聴」が挙げられている。「年総会へグループ代表が参加していることを知っている」という会の仕組みをよく認識している者が継続へ結びつくものと思われる。従って、継続を促進する側にとってこのような運営面に努力することによってさらに継続を促進することが可能といえる。他に、「大勢だとやりやすい」という指導に関する変数が挙げられている。続いて「社会人での運動経験」となっている。この変数のカテゴリースコアからはこの活動以外にも運動経験のある者が長期の継続と関連が深く、このような活動を継続できる者は他の活動に対しても継続できる力をもつものと推察される。「自由時間の過ごし方」では「今欲しいもの」と同様、知的向上など充実した生活を送ることに価値をおく者が長期に継続することを示唆するものと考えられる。最後は「スポーツ番組の視聴」に関する変数が挙がっており、運動に対し特別の関心を持った者が必ずしも長期に継続しているとはいえないことを示している。

表-4-2 主婦層の体操実践の継続年数を規定する要因の分析2

要因 (変数群)	変数	偏相関		
基礎要因	年齢	.316		
	職業			.016
	学歴			.074
活動要因	収入	.205		
	目的	.209		
	活動回数		.186	
	時間帯		.172	
	活動内容			.035
	会費		.172	
運営要因	交通費			.093
	運動着の費用		.189	
	合同練習会参加		.197	
	合同練習会について			.073
指導要因	年総会参加経験	.285		
	総会への代表参加		.148	
	全体組織や仕組み			.088
効果要因	大勢だとやりやすい		.143	
	運動の仕方を細かくいう			.080
	人間関係をまとめる			.056
環境要因	老化防止			.099
	満足感			.042
	根性育成			.005
価値意識要因	活動場所	.221		
	会場の広さについて		.103	
	会場の広さ(坪)	.227		
	練習可能な人数	.264		
運動意識要因	会場までの所要時間			.097
	運動は健康に不可欠		.109	
	仕事か休養か			.094
	精神と身体の自由			.072
運動意識要因	自由時間の過ごし方		.126	
	今, 欲しいもの		.161	
	運動のすききらい			.049
運動意識要因	社会人での運動経験		.137	
	スポーツ番組の視聴		.121	

表-4-2は本分析で取り上げた全変数を関連の深いと思われる変数群毎にまとめたものである。まず、継続年数の長短に対しては「年齢、学歴、収入」といった個人の属性を示す基礎要因の規定力が強い。次に「目的、活動回数、時間帯、会費、運動着の費用」といった変数が有意な偏相関を示す活動要因の影響力が強いことを示唆している。続いて、運営や環境に関する要因が継続年数の長短への規定力が強いことを示している。その他には価値意識要因、運動意識要因といった精神的

な要因が続き、指導要因、効果要因となるに従い規定力が弱まることを示している。

以上のように、基礎要因に次いで活動、環境、運営といった人為的に制御可能な要因が継続年数の長短に対し規定力が強いことを示している。

これらのことから、体操実践の継続を促進するために、まだまだ工夫の余地が存在していることを示唆するものと考えられる。

ま と め

体操実践の継続を促進する手がかりを得るために活動の実態について検討した結果、運動や身体に対する価値や目的といった精神面においてはいずれの分析においても地域別、継続期間別に差は認められなかった。しかし、継続年数の長短を規定する有力な要因は「年齢」であり、年齢が切実に意識として存在するものを実際の行動に移し続行する原動力となりうるものと考えられる。また、年齢に次いで規定力の強い要因は人為的に制御可能な要因であり、会員の実践を補助する活動方法の検討、よりよい実践環境への改善、効果的な運営方法や継続を促す行事の企画といった関係者の努力に負う部分も大きいと考えられる。運動実践が生活の一サイクルとなるように実践者を取り巻く関係者の具体的な施策が望まれる。

今回の調査においては継続中の実践者を対象としたことから各分析においても一致する部分が多かったものと思われる。今後は実際に退会した者を追跡し今回の結果との比較をすることにより更に継続促進への詳細な検討が必要と思われる。

注) ここで取り上げた体操実践活動は、身体を「人間が最も大切にしなければならないもの」としてとらえ、体操をその身体尊厳の実証として実践することを理念としている。具体的には関東地区、関西地区、北九州地区、南九州地区に分かれ約5,000名の会員による自主的活動で、20年の歴史を持つ組織である。

体操は約50%の運動強度をもち50種類の運動を50分間行うA体操を基本としている。他に内容を高度に凝縮した約30分間のB体操、指導者のための約7分間のC体操がある。運営に関しては身体教育を目的とした非営利団体であり、指導者と会員が自主的に行っている。一例として各グループ代表が年1回各地区で総会を開催し活動方針などを決定している。また会員相互の交流として年2回の合同練習会が行われている。会員への勧誘は宣伝や広告に依存せず会員の口コミによるものである。

活動は、週1時間、自らの身体の向上のために積極的に行動し、体操実践の生活化を目的としたものである。すなわち、健康に対する態度を道義としてとらえ観念にとどまらず実践する人間の育成を意図したものである。

参考・引用文献

- 1) 国民選好度調査委員会編 「日本人の満足度—国民選好度予備調査—」 1972 至誠堂 P.206
- 2) 日本地域開発センター編 「日本人の価値観」 1974 至誠堂 P.13~27
- 3) 前川峯雄他編 「指導者のためのスポーツクラブ」 1979 プレス・ギムナチカ

- 4) 体操三井島システム事務局編 「十五周年記念誌」 1981
- 5) 大蔵省印刷局 「国民生活白書(昭和60年度版)」 1985 大蔵省印刷局 P.399
- 6) 金崎良三 「社会体育指導者の指導行動に関する研究(1)—指導行動の内容別による規定要因の検討—」
体育・スポーツ社会学研究 1982 道和書院 P.189~217
- 7) 三宅一郎・山本嘉一郎 「SPSS統計パッケージⅡ 解析編」 東洋経済新報社 1977 P.206~219
- 8) 徳永幹雄・金崎良三・多々納秀雄・橋本公雄 「スポーツ行動の予測と診断」 1985 不昧堂
- 9) 西垣完彦・藤田匡肖他 「スポーツ行動の生活体系的アプローチ(Ⅰ)」 日本体育学会第29回大会号
1978 P.136
- 10) 三井島智子・岡田猛・小松恵理子 「主婦層における体操実践活動の地域比較について」 日本体育学会
第35回大会号 1984 P.144